

釧路南ロータリークラブ会報

第27回 例会報告 2013.2.1 通算1475回

・点 鐘 移動例会につきありません

・お客様と来訪ロータリアンの紹介

釧路北ロータリークラブ 北川健二会員



・入会記念祝

上川原 昭会員 H23. 2. 4 (2年目)



・会長挨拶



こんにちは。今日は移動例会という事でここ「まなぼっと」にお集まりいただき有難うございます。

また、来訪ロータリアンとして、釧路北ロータリークラブ・北川健二会員よりご挨拶、有難うございました。本日のプログラムでは、清水会員に時間まで卓話をお願いします。本日、釧路RCの邵会員よりメールが来ましたので読ませて頂きます。

ご無沙汰しております。釧路RCの邵です。連名での送信、大変申し訳ございません。御許してください。取り急ぎ、ご検討して頂きたい事案が御座いまして、ご連絡させて頂きました。

早速では御座いますが、お話させて頂きます。昨年度、釧路南RCと韓国セーチンジュRCとの「友好クラブ」としての世界社会奉仕事業、カンボジア幼稚園・学校建設が行われました。その後、多少時間を要しましたが、建設完成に至りそうだと聞いております。今年度、私が釧路RC幹事になり、長倉直前会長にもご相談させて頂きましたが、せっかく両RCがご尽力頂き建設しようとしている幼稚園・学校に何かできないかと、色々考えた上、その幼稚園・学校に「水浄水化装置」をこの度、1機では御座いますが、地区の補助も頂きながらでは御座いますが、寄贈させて頂きました。

その際に、カンボジアの窓口になっておられます、シン宣教師(女性)から、幼稚園・学校に「図書室」を設けようとしたが、資金不足の為、悩んでいるとの事でした。

私は少しでも力になりたいと思い、今、個人的にクラブ会員にお願いし、大きな図書費にはなりません、が、親しい仲間に協力をお願いしようと思っている次第です。

韓国セーチンジュRCにも、せっかく両クラブで建設した幼稚園・学校に是非「図書を・・・！」と先程、今年度「ユン会長」と昨年度の「イ会長」にメールを送信致しました。

釧路南RC様でも、是非「理事会」でご検討願えれば、幸いです御座います。何分、急な提案で申し訳御座いませんが、“小さな誠意が集まれば、大きな力になる！”の精神でご検討くださいませ！

ご返信、お待ちしております。

釧路RC 邵

PS：私事では御座いますが、当クラブの数名で、来る2月26日にカンボジア・タイに「水浄水化装置」の設置視察に行つてまいります。その際に「図書」を寄贈しようと考えております。以上です。

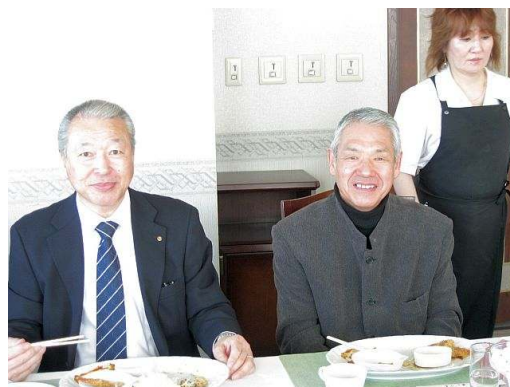
・幹事報告



- * 第7・8分区の各RCより、1月の会報と2月プログラムを拝受しております。
- * リスボン国際年次大会の参加のお願いが届いております。
- * 今月のロータリーレートは1ドル=88円です。

・委員会報告 親睦委員会

- ・本日のニコニコ献金
上川原 昭会員 入会記念祝として



現長江勉第7分区ガバナー補佐(左) 次年度第7分区ガバナー補佐予定者北川健二会員(右)



昼食中の上川原会員・山本美穂会員・亀井麻也会員



昼食後、歓談中の木内会員・高橋副会長・長倉直前会長・上川原会員



歓談中の清水会員・工藤ゆかり会員・長江会員
釧路北RC北川会員



先日、献血の為、献血移動例会でもお世話になっている「ぷらっと 946 献血ルーム」へ行った所、高橋誠治出張所長より、血液が非常に不足しているとの事で、ご協力をお願いをされました。(談:長倉 SAA) 上川原会員 (右)

・本日のプログラム 「 会員卓話 」

担当 出席プログラム委員会

◆清水 哲委員長



今日は数え方のお話をしたいと思います。人と逢ってももの30秒も会話すると、その相手の生活、教育の程度がわかると申します。世界中色々な国の言葉がありますが、日本と西洋のもの数え方が大きく変わります。たとえば、人を一人、ご飯を一杯という言い方は日本で普通に使われております。専門的には助数詞と申しますがヨーロッパではこの助数詞というものは基本的にはありません。数を表現するのに助数詞などは余計なことと思っているのかとも思われます。世界に冠たる日本語の美しさはようかんを数えるときに棹を使うと、店で売っているようかんの細長い形をしたものを推測されます。このように助数詞は数える物がどんな様子をして

いるのか、どんな特徴があるのか簡単な方法で表す手助けをしてくれる便利なもので日本で発達したものと考えます。だからこそ日常の会話に正確な助数詞を使って貴方の会話の品性を高めてください。山→一座、峰→一嶺、海→一海、湖→一湖、流れ星→一筋、浴槽→一桶(一据え)、短剣→一七、桶→一本(個とも数える)(取手の付いたのを荷と数える)矢羽根→一尻、アイロン→一挺、双眼鏡→両目に当てて顔を覆うものとして一面で数えることがあります、一般的には一台、お年玉→一封、そろばん→一面(一挺もあり)、鍋→一口、鍋蓋→一蓋、宝石→一顆、果物→一菓(顆とも数える)、カステラ→一釜外に(本、斤)切り分けたら(切れ)、ようかん→一棹(本も使う)切り分けしたのは(切れ)(個)も使う、寺→一寺、神社→一社、聖人君子→一方、戦で取った首→一級(ひとしるし)、敵味方区別しないときは本(ぼん)で数える、絵馬→一体、地図→一舗(小さな地図なら葉)、魚のひれ→一基(特に背びれは普通、枚で数える)膏薬→一貝(状態により一滴、一本)神→一柱、仏→一尊、霊→一位、英霊に対しては一柱、命→一つ、舞→一差し(一手と言うこともある)舞台→一幕、俳句→一句、短歌→一首、講談→一齣、落語→一題、詩歌→一編、音楽→一曲(つ、もあり)、楽曲→一曲、経験→一度、格言→一言、殺気→一陣、空襲→一波、光→一筋、条、俳諧的に滴もあり、閃光→一閃、色→一彩一色もあり、涙→一掬、煙→一条(筋、本もあり)、線香→一炷、相撲→勝負は一番技は一手、柔道勝負は一戦、技は一本、囲碁→一局打ち手は一目、将棋→一局、指し手は一手、双六→一調 進む数は一目、授業→一齣(限、時間もあり)芸者→一枚、扇子→開いて一柄、面、把、握、閉じて本、着物→一領(着、枚もあり)、袴→一腰(枚もあり)琴→一張(面と数えることもあり)尺八→一管(本もあり)掛け軸→一幅(本、軸もあり)盆栽→一鉢、屏風→一帖、一架、一扇、一局等があります。襖→一領、鎧→一領、兜→一刎(これは敵方の兜を数える時、一般には一頭)刀→一口(腰の部分に差すので一腰とも数えます)外に刀(剣と数えることもあります)短剣や懐剣の場合は七口で数えます。長刀→一枝、(本振りも使います)長櫃→一棹外に一合とも言う(合とは上、下の物が合うことを意味しております)行李→一梱、銚子→一提外に一枝(一般には一本で数

えます) 盃→一盞 (盃に注いだ酒は杯で数えます)
白→一据、一基とも数え、餅つき一回分の量を一白
といいます、炬燵→一炬、仏壇→一基、神棚→一基、
山車→一台、神輿→一基、香炉→一合、
木魚→一枚 (もともと、平面的な魚形の板だったので枚で数えます) 球体の中が空洞ですので「一個」
「一台」と数えるのが一般的です。笠→一蓋、平面的な笠の場合枚で数えることもあります。提灯→一
張り「挺」を使うこともあります。雛人形→お内裏
様一対人形は一体、全体で一飾り、鯉のぼり→吹流
しは「一流れ」鯉は一匹はためく様子は一旒、塔→
一基屋根は一重、簞子→一棹引出しは一ぱい階段は
段、骨→頭蓋骨は一個細長い骨は一本、かけらは一
片、全身は一体、髪→、まとめた髪から外れた髪は
→一筋、束ねた髪は一茎、抜け落ちた髪は一本にな
ります。丁髷は「一束」で数えます。鱈の子→かた
まりで一匹分を「一はら」白子は魚類の精巣ですが
一匹分を一はらと数えます。あじさい→花のかたま
りは一朶、花一つで一輪と数えます。電車汽車→全
体で一本、車両は一両、新聞→ひとまとまりで一部、
ページは一面、記事は「一点」、花火→打上げ花火
一発、家庭での小型花火は一本、信号弾→一星、雲
→通常一つ入道雲一座飛行雲一筋、かつら→一台、
部分的に覆うもの一枚、天井板→一枚、天井画→一
面、荷物→通常一荷、馬に積んだら一駄、天秤棒を
使って荷物を運ぶ場合、両端につけた荷物二個をセ
ットで一荷といいます。自動車→一台、馬車→一両、
両は輛とも書きます。ビル→大型ビル一本、小型ビ
ル→一軒、道→通常一本、細い道一筋、基盤の目の
ように整備されている道一条、本はどちらの場合で
も使えます。人間→生きている場合一人、死ぬと一
体、骨→骨壺に入った場合一口、墓に入ると一基、
位牌になると一柱、まぐろ→丸ごと一本、身おろし
すると一丁、切り分けると一さく。鶏肉→丸ごと一
羽、胸肉、モモ肉、ささみは一枚、手羽は一本、た
こやき→皿にもると一皿、舟形に盛ると一舟。そば
→ざるそばは一枚、かけそばは一杯、注文は丁で数
えます。鍋料理→料理としては一鍋、器に盛ると一
椀、ご飯→釜一つで一釜、茶碗に盛ると一装い「装
う」と言う言葉には飲食物を整え、用意するという意
味があります」外に一膳一飯と数えることもできま
す。ちなみに「膳」にはご馳走や料理を意味する言
葉です。かに→そのまま一杯、切り落とした足

は一肩、蟹は生きてる間は匹で数えます。食用にな
ると杯になります。杯は器の事ですが、甲羅の形が
器に似ていることに由来します。また蟹は尾びれは
ありませんが食用の魚と同様「尾」をつけて数える
こともあります。よく切り落とした足が売られてお
りますがなぜか「肩」で数えます。うなぎ→そのま
まで一尾、蒲焼にすると一串、串を抜いて一枚、い
わし→目刺しは一連、開きは一枚、生き物としては
一匹。馬→一頭、武士が乗ると一騎、ケーキ→円形
のケーキ丸ごとで一台、切り分けて一ピース、「一
切れ」とも数えます。チーズ→塊で一塊り、切り分
けて一切れ、パイナップル→切る前は一本、スライ
スして一切れ、パイナップルはその形から本で数え
ます。一般的に個を使う方が多いかもしれませんが、
球体でないので玉は使いません。さくらんぼ→茎に
付いた状態は一房、実を切り離すと一粒、考え方
ですがつまめるようになったら粒です。キャベツ→一
玉、葉を切り離すと一枚、ブロッコリー→全体で一
株、小分けして一房、反物→一反、二反で一匹、一
反は大人の着物一着を仕立てることができます。一
匹は羽織着物ができます、匹は疋とも書きます。風
呂敷→包む前は一枚、何かを包むとひと包み、なみ
に風呂屋に行くとき着替えを包んだり足を拭いた
り敷物にしたことに由来します。ゴミ袋→中身が空
のとき一枚、中身が入ると一袋、風船→膨らます前
一枚、膨らまして一個、海苔→10枚で一帖、和紙
2000枚で一締め、松飾り→二つで一門、掛け軸→二
幅で一対、矢→甲矢、乙矢で一手、矢には羽のつき
方の違いで甲矢、乙矢の二種類があります。射芸
では甲乙二種類の矢を交互に射ますが、この二本の
矢を同時に扱うため一手で数えます。幕→左右に張
って一帖、帖には薄いものを張り合わせるという意
味があります。足袋→左右で一両と数えます。両は左
右両方につける装束を数える言葉で双も同じよう
に使うことができます。足につけるので足という事
もあります。手袋→一双手袋は左右二枚で双と数
えます。左右の決まってない軍手のようなものは組
で数えることもあります。釣った魚→100尾で一束、
ついで釣った魚は個々では「尾」や「本」で数え
ますは100尾で一束です。また二尾以上が同時に釣
れると一荷といいます。スルメ→10枚で一連、俗語
で「足」で数えることもあります。江
寿司→一貫、原則として寿司は二個で一貫です。江

江戸時代、店で出される寿司の大きさは穴あき銭一貫分 960 文を紐に通した大きさでした。これはかなり大きかったので、半分に分けて握るようになりました。これが握り寿司二個で一貫といわれる由来です。菜箸→二本で一具、菜箸は二本をセットにして「具」を使って数えます。具は必要なものをそろえるという意味があります。外にも「組」「揃い」を使って数えることもあります。ちなみに、菜箸や火箸は箸の類に入りますが、食事に使うものではないので「膳」では数えません。鳥→オスとメスのペアを「番」といいます。この言葉から一番（ひとつがい）、二番（ふたつがい）と数えます。ペアの片方を言うときは隻と使って一隻のように数えます。見物人→50 人業界言葉で一杯、芝居小屋でひとまとまりの見物人を数えるのに「杯」という単位を用いて数え 50 人で一杯です。英語で言う沢山の (many) のいっばいの意味ではありません。札束→100 枚で一束、銭→100 文で一結、1000 文で一貫です。「一文」は江戸時代の通貨の一つである寛永通宝一枚の事で、平らな円に四角の穴が開いており、銅銭と鉄銭がありました、明治になって一厘として使われました。絹織物→10 反で一締め「反は布の大きさの単位で一人分の衣料に担当する分量の事を一反といいます。ちなみに一反の長さに厳密な規格はなくおおよそ 12M 綿がやや短く、絹が一番長いようです。稲→10 把で一束、把は片手でまとめられる分量をあらわし、稲 10 把で一束を数えます。蠟燭→100 本で一束、釘→60kg で一樽、個々の釘を数えるときは一本二本。哺乳類→人より大きいもの一頭、人より小さいもの一匹と数えます。匹の字は馬の尻が割れているところをあらわした表形文字です。昔は馬は匹でしたが大型の動物で頭で数えるようになりました。魚→生物としての魚一匹、食用の魚一尾、鯉、鯛等平たい魚は枚を使うこともあります。うさぎ→一羽うさぎを「羽」と数えるについては色々な説があります。うさぎの大きな長い耳を羽根に見立てているという説、宗教上の理由で後二本足で立つうさぎを鳥と見なして食べていた時代の名残ですがはっきりと分かっていません。一般的には一羽、一匹、半々くらいです。犬→一犬通常には匹や頭を用いる。その区別は原則として大きさです。

警察犬や盲導犬等訓練を受けた犬は大きさに関係なく頭で数えます。コアラ→一頭貴重なものとして小さくても頭で数えます。鷹→一本、一般的には「羽」ですが鷹を使って狩をする鷹狩に連れてゆく鷹は一本、鷲→一頭、一般的には「羽」となります。しかし人間を脅かす存在になりうる事から「頭」を使って数えます。孔雀→一般的には「羽」ですが、尾羽付近に生えている飾り羽を広げると、扇の形になるため「面」を使うことがあります。だちょう→だちょうはかなり大型の鳥で、翼はあっても飛ぶ事はできないため、大型の動物として「頭」を使います。しかし鳥類なので原則として羽で数えます。鯨→一頭、イルカ→一頭、平目→一枚、これは食用の場合でその他は「尾」です。エイも食用ではないので尾で数えます。まぐろ→一本、生きているときは匹です。水揚げされても尾は使いません、大きいからでしょうか、金魚→一匹、金魚は食用ではありませんがペットショップでは尾で数えております。蛤→一口、牡蠣→一杯、生物として数えるときは一匹です。蛸→一杯、生きてるときは匹です。いか→一杯、生きてるときは匹です。タツノオトシゴ→一般的には匹ですが、その名の通り龍に見立てて数えると頭を用いて数えることができます。なまこ→一本、生物としては匹です。蝶→慣用的に一頭と数えます。蛾→一匹、蚕→一匹、大事な虫として頭で数えることがあります。「虫の幼虫」→一匹、随分書き出しましたが極一部です。大分に業者の使う専門語が入ってると思います。



・次回のプログラム

2月8日(金)

「世界理解月間に因んで」

会場 釧路東急イン

担当：国際奉仕委員会

今週の会報担当：佐藤了会員